

重点目標	重点	具体的取組	主担当	現 状 (H30年度結果)	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1. 授業改善と学力向上		①基本的な学習規律の定着	学びの基礎づくり部会	児童の実態に合わせ、学習目標を設定していったことで、児童が集中し、学習に臨める環境を整えていくことができた。また、結果を可視化することで、児童もより良い結果を出せるようにと目標を意識することができた。次年度もまた児童の実態に合わせた取り組みを行い、学習規律の定着を目指していきたい。	学年に応じた学習規律が身に付いている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる	A B 合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	・職員③ ・児童④ ・保護者④ 7月、1月
		②学習準備の定着 (名札着用と筆記用具、道具袋に入れる物がそろっている)	学びの基礎づくり部会	毎月の学習用具の点検で自分の持ち物を確認し、筆箱の中身をそろえる児童が増えてきた。また、名札もほとんどの児童が着用できている。次年度も、児童が自分たちの持ち物を意識し、整理できるようにしていきたい。持ち物表を配布するとともに学習用具はシンプルなものを使用するという約束を共通理解していきたい。	名札着用と筆記用具、道具袋に入れる物の準備がされ、その指導をしている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる		・職員① ・児童② ・保護者② 7月、1月
	◎	③表現する力の育成 (話すこと)	学びの基礎づくり部会	「あたたかな聴き方」「やさしい話し方」「学びの約束5か条」を職員で共通理解して取り組むことができた。児童の学習意欲が高まり、特に低学年は授業での話し方や聴き方など学習基盤が整えられた。今後、自分の書いた考えと比べながら友達のを聴き、さらに付け足したり、書き直したりしたことを、説明することができるように、手立てをしていく。また、学びが広がったり深まったりしたことを児童に価値づけし、自信を持たせていく。	自分の考えを伝え、つなげて話すことができる	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員④ ・児童⑤ ・保護者⑤ 7月、1月
	◎	④家庭学習の充実と習慣化 (低学年20分、中学年40分、高学年60分の定着)	学びの基礎づくり部会	かしこ山遊園地をつくったことによって、低学年・中学年の自主学習への取り組みが増加した。さらに、全校で頑張ってやっという意識を持たせることができた。また、自主学習の取り組みの学級差や学年差をなくすために、職員に自主学習ノートの評価の仕方についての指標を出した。課題として、宿題への取り組みはどの学年もとてもしっかり取り組んでいるが、自主学習ノートへの取り組みが高学年になると少なくなったり、個人差が大きかったりする。次年度は、家庭の協力を得ることも大切にしていきたい。	毎日、決められた時間の家庭学習を行っている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる		・職員⑤ ・児童⑦ ・保護者⑦ 7月、1月
	◎	⑤読書量目標値の到達促進の取り組み (児童委員会活動、教職員や司書による本の紹介、読書カード等)	学びの基礎づくり部会	2週間に1回本を借りる運動に加えて、月に1回は、帯タイムに本を借りに行くという取り組みをしたことにより、昨年度に比べ、読書量は増加した。また、読書山のぼりや図書ビンゴなどの読書イベントを職員全体で呼びかけたことで、本年度後半は昨年度よりも貸出冊数が増加した。読書量をさらに増加させるために、今後は、児童が読書イベントの有無にかかわらず、自発的に本に触れることができるよう、より身近に本を感じられる環境作りをしていきたい。	読書量の目標値を設定し、到達のための手立てが工夫されている	目標値 1～3年生 月10冊以上 4～6年生 月5冊以上 A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑥ ・児童⑧ 7月、1月
		⑥補充学習の計画的な実施 (朝読書、ぐんぐんタイム、個別学習の計画的な実施)	学びの基礎づくり部会	道徳的価値を意識しながら行事作文を書くことで、道徳の授業で学んだことを自分事として実生活の中で考えることができていた。全校テストに向けて自学に取り組むなど、合格に向けて意欲的に学習をしていた。3年生5年生はレベルアップドリルに計画を立てて取り組んだ。児童の意欲を持続させながら継続していきたい。	補充学習の計画的な実施をしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:80%以上の児童ができる C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑦ 7月、1月
	◎	⑦学力向上プランを意識した授業づくり	学びの基礎づくり部会	「聴いて、考えて、つなげる授業」の具体的な取組を職員で共通理解をして、学校全体で取り組んだ。今後、「あたたかな聴き方」と「やさしい話し方」を運動させ、友達のを聴いて、自分の考えに付け足したり、書き直したりして、自分の考えを説明できるように支援を行う。	児童が自分の考えをもち、表現できる手立ての取組と検証、評価を積極的に行っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑧ 7月、1月
		⑧3つの視点で行う授業改善	学びの基礎づくり部会	3つの視点を意識した授業を行うことができるように取り組んだ。特に、アタックポイントでは、友達のを聴いて、自分の考えと比べ、付け足したり、書き直したりして考えを広げ深めた。今後、自分の考えを説明することができるように支援をしていく。	学びボード、アタックポイント、深めの発問の3つの視点で授業改善をしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑨ 7月、1月
	◎	⑨各種学力調査の結果を生かした学力向上改善の取り組み (4月:国、県学力調査 12月:県、市学力調査)	教 務	県評価問題、市学力調査の結果は、年度当初の学校目標には届かなかったが、どの学年も市・県・全国と比較しても平均を大きく上回る結果であった。また、学年間での大きな差はなく、学校全体での学力向上の取組や授業改善の成果があったとらえている。前期の課題であった書くこと話すことについては、後期学力向上プランに位置付け、授業の中での先生方の意識化を図るとともに、活用力をはかる問題・詩の暗唱・条件作文などの基盤の部分でも力をつける取り組みをしてきた。来年度も基幹の取組として継続していく。	各種学力調査の結果を生かした学力向上の取り組みを積極的にしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑩ 7月、1月

2. 豊かな心と 社会性の 育成	①あいさつなど基本的行動 様式の育成	心・体力 づくり部会	保護者のあいさつに対する割合が8割弱だったのは、家庭や地域でのあいさつがもう少しということだった。しかし、学校でのあいさつは教師や児童間でとてよくなった。あいさつをする時に「自分から」「立ち止まって」「笑顔で」「語先後礼」ができる児童が多くなった。その中の「語先後礼」であるが、そこまではできなくても、軽く会釈をしてあいさつができるようになった。これも、毎月のあいさつ運動の効果が表れていると思われる。全校を通して、朝から明るくハイタッチをしながらのあいさつは、心を通わせるのにとてもよかった。あとは課題である地域でのあいさつに力を入れて取り組みを考えていきたい。	語先後礼のあいさつ がきちんとできている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる	A B合わせて 80%未満の 場合取組の 検討・改善 を行う。	・職員⑩ ・児童⑨ ・保護者⑧ 7月、1月
	②いじめや問題行動対応の 体制	生徒指導 島田	保護者アンケートに対するABの割合が、年間を通して100%だった。日頃から、いじめに対するアンテナを高くして、職員間の情報交換を密にしてきた結果が出たと思われる。また、毎月の児童のなかよしアンケートでは、いじめに対する内容が昨年度と比べて激減した。そのアンケートの通り、児童の普段の様子を見ると、とても落ち着いて学校生活を過ごしているように見えた。しかし、この状態に満足せず、常に児童への見取りを厳しくし、少しの変化にも気づいて対応していけるように、職員間の連携を強めていきたい。	早期発見、解決への 組織的対応をしてい る	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑫⑬ ・児童⑩⑭ ・保護者⑨ 7月、1月
	③主体的に取り組む特別活 動	心・体力 づくり部会	年6回の「たてわりなかよし会」を実施することができた。6年生が下級生を引っ張り、優しく教えてあげる姿が見られた。その6年生の姿を見て、5年生が「6年生ありがとう会」で中心となり、活躍することができた。毎日のたてわり班清掃でも、6年生が中心となり、無言清掃を1年間通して実施することができた。今後は、たてわり班活動における内容を充実させ、絆づくりができるようにする。	主体的によりよい学校 生活を築こうとしてい る	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる		・職員⑬ ・児童⑪ 7月、1月
	◎④道徳科の指導の充実	道徳推進	2年間の指定研究の成果や道徳に関する研修からの学びを生かし、授業展開やつなぐ手段等を継続・改善しながら、授業力の向上と共通実践を行っていく。 自己点検シートの活用と実践記録掲示を継続していく。	自己点検シートを活用 した道徳授業を行 っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑮ 7月、1月
	◎⑤全体計画別業と関連づけ た道徳授業の工夫	道徳推進	学校生活や日常生活など、児童が今までに経験したことを基に、道徳的価値について考えを深められるよう授業を実践していく。 また、授業の中で考えた生き方づくりを、その後の活動を通し、実感できる機会を設定するように意識していく。	全体計画別業と関連 づけた道徳授業の工 夫をしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑯ 7月、1月
	◎⑥個別の指導計画や教育支 援計画の作成と有効活用	特別支援 コーディネ ーター	個別の指導計画・支援計画を学期ごとに更新して支援・指導の見直しをしている。校内支援委員会で情報交換や共通理解を行い、専門相談や他機関との連携もできた。また、支援員の方と連携し、支援が必要な児童へよりよい支援ができるようになってきている。来年度に向けて、引継ぎを行い、よい支援が継続して行えるようにする。	個別の指導計画や教 育支援計画を作成 し、有効活用してい る	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑰ 7月、1月
3. 健やかな体 と危機管理 の育成	①基本的な生活習慣の定着 (早寝・早起・朝食の定着)	保健主事	2学期に生活リズムの学級指導を行った結果、1月の生活カレンダーでは就寝時刻(低-21:30、高-22:00)を守った児童は、低学年が80.2%、高学年が76.0%だった。長期休暇の後には、生活リズムが崩れやすいので、来年度も2学期を重点的に、生活リズムの指導に取り組んでいきたい。	早寝、早起、朝食の習 慣が身に付いている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる		・職員⑳ ・児童⑮ ・保護者⑱ 7月、1月
	◎②体力・運動能力調査の実 施・分析・取組	心・体力 づくり部会	年度後半の方針・方策にも述べたように、本年度の新体力テストでは、4～6年の男女全種目で県の平均を上回った。昨年度の課題であった長座体前屈についても改善された。 来年度に向けて、河井小学校の体力アップの取組を継続していくことが大切である。そのためには、現在の河井小学校の児童の体力についての課題と各種取組の目的を全職員で把握し、共通実践をしていく必要がある。また、毎年同じ取組だと、児童の意欲向上に繋がらないため、新しい取組や方法も織り交ぜながら行っていきたい。	体力・運動能力調査 による課題の取組み を行っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員㉑ 7月、1月
	③いじめのない温かい人間 関係づくり	心・体力 づくり部会	年2回、QIアンケートを実施し分析をした。それをもとに児童理解会議を開き、全職員で気になる児童について共通理解を図った。また、1回目と2回目の比較をして、学級のまとまりの変化にも目を向けるようにした。そうすることで、みんなで全児童を見守る体制ができたことがよかった。気になることがあればすぐに情報交換して、早急に対応できたのもよかった。今後は、職員が校内で見つけた児童のよさを担任に伝え、担任から価値づけすることにより、互いのよさを実感できるようにしていく。	いじめ調査、QIアン ケートや個人面談の 実施している	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる(80%以上) C:あまりあてはまらない(70%以上) D:まったくあてはまらない(70%未満)		・職員⑱ ・児童⑲ 7月、1月

◎	④通信機器利用の指導と実施	心・体力づくり部会	教員の情報教育に対する意識は徐々に高まってきていると感じる。また、11月の「親子ホットネット講座」により、各家庭に情報モラルと共に、輪島市の決まり「夜9時までに通信機器を預ける」ということは啓発できた。しかし、その講座に来られなかった家庭には、資料の配布のみになってしまっている。そういった、講座に来られない保護者にも、お便りや懇談会等で地道に呼びかけていかなければ、情報社会の現代では、この項目は下がっていく一方だと考える。学校からフィルタリングや情報モラル教育について発信をし、各家庭で考えてもらう時間、機会を多くとっていく必要がある。	ネット端末5つの指導と約束が守られている	A:90%以上の児童ができる B:80%以上の児童ができる C:70%以上の児童ができる D:70%未満の児童ができる	・職員⑫ ・児童⑬ ・保護者⑪ 7月、1月	
	⑤事故の未然防止と発生時における職員相互連携による迅速な対応	心・体力づくり部会	登下校の安全指導をし、児童の安全についての指導を日頃から継続して行ったのがよかった。交通安全に関する気になることはすぐに担任に報告し、保護者へ連絡をしてもらうようにした。中でも危ないと感じたことは、視界がよくないところから道路への飛び出して、左右の確認をしないで道路を横断する児童が目についた。児童へ安全への声掛けを多くして事故の未然防止に努めていきたい。また、職員間で事故の未然防止の共通理解を図る機会を設けるようにしていきたい。	安全指導の実施と事故発生時の職員相互連携による迅速な対応を行っている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	・職員⑬ ・児童⑭ ・保護者⑫ 7月、1月	
4. 教育指導力と組織力の向上	①学校研究の実践(聴いて、考えて、つなげる授業づくりの推進)	学びの基礎づくり部会	聴いて、考えて、つなげる授業を全職員で共通して取り組むことで、児童の授業態度の基盤が整い、学習への意欲が上がった。職員全員が研究授業を行い、さらなる授業力の向上に努めた。今後、児童がよく聞き自分の考えが広がったことをメタ認知して自信がもてるように手立てをしていきたい。	研究主題の実現に向けて共通実践を積極的にやっている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	・職員⑭ 7月、1月
	②校内研修の充実(外部指導者招聘、校内研究会の活性化、外部研修への積極的参加と還元等)	学びの基礎づくり部会	聴いて、考えて、つなげる道徳授業を共通実践し、児童が自分の考えを上げたり深めたりできたこと教師が価値づけることで、児童は学び方を身に付け、学習への意欲が高まっていった。いしかわ道徳教育推進事業の研究発表会ではたくさんの参加者から、河井小の道徳の授業づくりが評価された。今後も道徳の授業で児童の考えが広がり深まる実践を行っていく。	校内研修を通して、授業力向上に取り組んでいる	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)		・職員⑮ 7月、1月
	③校務分掌や担当の責任の遂行	教務	各担当が前年度の反省を生かして、部会や学年部での話し合いをもとに改善したり、新しい視点で見直したりしながら取組を進めることができた。来年度も引き続き、このよい流れを踏襲し、チームワークを生かして組織的に取り組んでいけるようにしていく。	学校参画意識と組織の活性化に向けた取組を積極的にしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)		・職員⑯ 7月、1月
	④時間外勤務時間の縮減の工夫	教頭	ここ2か月は、時間外勤務12月が47時間、1月が45時間と、過労ラインである80時間を大きく下回っている。時間外縮減の意識や仕事の段取りの工夫など、先生方一人ひとりが意識して取り組んできた結果であると考え。忙しくなる年度末年度初めは、早めの取り組みにより、継続して勤務時間削減に取り組んでもらいたい。	時間外勤務縮減の取組を積極的にしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)		・職員⑰ 7月、1月
5. 開かれた学校づくりの推進と連携	①教育活動の積極的公開と情報提供(学校だより、学年だより、学校ホームページ等)	教頭	第2回目も保護者評価・職員評価も高評価であった。学校としては、HP担当がタイムリーに記事を更新できている。日々閲覧数が伸びるのは、毎日の給食や行事記事など継続した更新がなされているからである。また、見やすい、興味をもちやすい学校だよりの発行を心がけており高評価を頂いている。学年・学級だよりでは、各学年・担任が工夫して学年・学級の状況を伝えている。それらの結果がこの評価に繋がっていると考える。保護者・地域開かれた学校の観点からも、更なる情報発信に努めたい。	学校・学年・学級だより、学校ホームページ等を通して学校情報を発信している	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	・職員⑱ ・保護者⑬ 7月、1月
	②PTAや公民館活動など家庭と地域の連携	教務	10月のバザーでは多くの地域・家庭が足を運び、子どもたちがミニゲームでも楽しむ新しい形での実施で成功を取めた。地域のゲストティーチャーによる学習活動や卒業制作も計画的に進めることができた。職員の評価が100%なのに比して保護者の評価が低いことについては、双方向の取組になっていないことが原因かと思われる。前例踏襲にとらわれない取組やホームページや広報、学校だよりなどでの情報の充実などをはかりながら、連携の活性化に努めていきたい。	地域人材をいかした活動をしている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)		・職員⑲ ・保護者⑭ 7月、1月
	③幼保小及び小中連携の推進(情報交換による相互理解、園児・児童・生徒の交流活動の実施)	連携担当(1,6年担任管理職)	来年度も幼・保・小・小・中・高連携を意図的に組み込みを連携を深めていきたいと考えている。幼・保・小の連携では、毎月のお便り交換・掲示によりお互いの情報を知ることができる。小学校行事への園長・所長さんの臨席を願ったり、年長児との交流を図っている。児童の情報交換も行い、常に意思疎通できる状態を継続していく。中高との連携では、輪島中学校との授業相互参観、整理会の参加、主任との情報交換会を継続して行い。また、輪島高校との合同あいさつ運動、高校教員の授業参観要請など、中高との連携を深めていきたいと考える。	幼保・中学校との情報交換会、交流活動、行動連携を積極的にやっている	A:よくあてはまる (90%以上) B:だいたいあてはまる (80%以上) C:あまりあてはまらない (70%以上) D:まったくあてはまらない (70%未満)		・職員⑳ 7月、1月